

wén sī xíng zhū
聞 斯 行 諸

(聞くがままに斯れ諸を行おう)〈先進第十一〉

うえだ あつお
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

孔子は実行を重んじた人でした。いかなる学問も実践を伴わなければ意味がないとさえ考えていました。そしてそのことを折りに触れて何度も弟子たちに伝えています。『論語』の中の、「君子欲訥於言，而敏於行(Jūn zǐ yù nà yú yán, ér mǐn yú xíng)」(君子は言に訥にして、行いに敏ならんと欲す)〈里仁第四〉、「君子耻其言之过其行(Jūn zǐ chǐ qí yán zhī guò qí xíng)」(君子は其の言の、其の行いに過ぐるを恥ず)〈憲問第十四〉などの言葉がそれを表わしています。しかしこれはあくまで原則です。孔子は、この原則を誰にでも杓子定規に当てはめようとしていたわけではありません。『論語』に次のような場面が出てきます。

ある時、子路が孔子に訊ねました。「聞斯行諸?(Wén sī xíng zhū?)」(聞くがままに斯れ諸を行わんか)。先生のお説を聞いて、それをそのまま実行に移してよろしいでしょうか、と。これに対して孔子は答えました。「有父兄在。如之何其，聞斯行之(Yǒu fù xiōng zài。Rú zhī hé qí, wén sī xíng zhī)」。(父兄在ます有り、之を如何ぞ其れ、聞くがままに斯れ諸を行わん)。君には年長のご家族が居なさるはずだ。いくら私の意見だからといって、その方々に相談もしないで、そのまま実行に移してよいものかね、と。これが孔子の答えでした。

続いてもう一人の弟子の冉有が同じ質問をしました。その時の孔子の答えは意外にも「聞斯行之(Wén sī xíng zhī)」(聞くがままに斯れ之を行え)。そのまま実行しなさい、でした。この一連のやり取りを聞いていた若い弟子の公西華は首を傾げ、孔子に質します。

「さっき子路が先生のお説をそのまま実行してよろしいかと訊ねた時、先生は、『年長の家族が居なさるはずだ』とお答えになりました。ところが冉有が訊ねた時は、『そのまま実行せよ』とお答えになりました。私は迷います。どちらが正しいのでしょうか」と。

孔子は答えました。「求也退，故进之。由也兼人，故退之(Qiú yě tuì, gù jìn zhī。Yóu yě jiān rén, gù tuì zhī)」(求や退く、故に之を進む。由や人を兼ね、故に之を退く)。求(冉有の本名)は慎重派だから背中を押してやったのだ。由(子路の本名)は並外れた行動派だから頭を押さえてやったのだ、と。孔子はまた次のようにも言っています。

「可与言，而不与之言，失人(Kě yǔ yán, ér bù yǔ zhī yán, shī rén)」(与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う)〈衛霊公第十五〉。言うべき相手に言うべきことを言わなければ、人を失うことになる。さらに続けて次のようにも言っています。「不可与言，而与之言，失言(Bù kě yǔ yán, ér yǔ zhī yán, shī yán)」(与に言うべからずして、之と言え、言を失う)。どんな言葉も、言うべきでない相手に話せば、せっかくの言葉が無意味になってしまう、と。孔子は常に相手に応じて、慎重に言葉を選んで話していたのです。このことは『論語』すべてを通して言えることです。ここのツボを押さえて読むと『論語』は、より一層面白いものになるでしょう。さもないと、『論語』は矛盾だらけの書物ということにもなりかねません。